

『奈良公園』ヒストリア「かつてプロ野球公式戦も」

令和3年(2021)2月20日

「マチタビ」では、その土地ゆかりの人に、思い出などをうかがいます。

今回は俳優 加藤雅也さん

奈良公園のすぐそばで生まれ育ち、多感な時期を過ごしました。海外で演劇に挑んだ経験は自らのルールを改めて意識するきっかけとなりました。今は奈良出身の俳優であることにこだわり、古里が舞台の映画にも出演するようになって、一層、愛着を深めています。(記事より)



ヒストリア かつてプロ野球公式戦も

年約1300万人が訪れ、「奈良の顔」とも言える奈良公園は、興福寺、東大寺、春日大社なども含めると甲子園球場約170個分の約660ヘクタールに及ぶ。明治期の近代化政策の一環で、明治13年(1880)に公園として整備されたのが始まりだ。

当初の敷地は、興福寺の境内の一帯だけだった。明治22年(1889)に周辺の社寺の境内、春日野や浅茅ヶ原といった名勝地、若草山や春日山などが編入され、現在とほぼ同じ規模になった。

明治、大正期は国民の体力向上が国是であったため、明治24年(1891)、東大寺南大門の東側に、1周約600mの春日野運動場が整備された。その後運動場の一部は野球場となり、周辺にテニスコートやプールが設けられた。

日本野球機構(NPB)によると、戦後の昭和24、25年(1949、50)にプロ野球の公式戦3試合がこの野球場で開催された。はるか球場の奥に東大寺大仏殿の屋根を飾る鷗尾や南大門が望め、審判員が「環境に於いて日本一の球場」と評したとの逸話が残っている。

しかし、昭和41年(1966)の古都保存法を機に、県は歴史的景観を堅守する姿勢に舵を転換。昭和63年(1988)「なら・シルクロード博覧会」の会場整備に際し全ての運動施設が撤去された。

現在は芝生広場「春日野園地」の名で、「奈良国際映画祭」の会場などとして親しまれている。



昭和44年(1969)春日野運動場で開かれた奈良市の小学校の体育大会

写真提供：奈良市飛鳥小学校